

東区、よかまち・よかところ **歩・歩・歩**

東区歴史街道を往く



(坂本恒義氏作)

Vol. 2

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

東区歴史ガイドボランティア（さんぽ会）の おすすめスポット



目次

エリア	掲載月	タイトル	ページ
和白	23年5月	今も美和台に残る殿様道	4
志賀島	6月	海人の浦「弘と天神社」	5
馬出	7月	お綱さん物語	6
香椎	8月	香椎高校の黒門	7
名島	9月	空の英雄が飛来 名島水上飛行場	8
箱崎	10月	亀山上皇と敵国降伏の勅額	9
奈多	11月	奈多の「志式座」	10
志賀島	12月	勝馬の享保の大飢饉犠牲者供養塔	11
香椎	24年2月	香椎宮・古宮跡	12
名島	3月	名島橋と渡し船	13
西戸崎	5月	石炭の街「西戸崎」	14
上和白	6月	和白・高美台の大神神社	15
箱崎	7月	筥崎宮・夕陽の素晴らしい眺め	16
香椎	8月	御島神社	17
松崎	9月	陣の越	18
雁の巣	10月	東洋一の規模・雁ノ巣飛行場	19
三苫	11月	綿津見神社	20
箱崎	12月	箱崎・恵光院	21
香椎	25年2月	勅使道・香椎宮参道	22
松崎	3月	松崎の一里塚	23

『さんぽ会』のホームページを公開しています。

URL : <http://www.e-sanpokai.tank.jp/>

「ボランティアのすすめスポット」
冊子発刊によせて

あいさつ

東区長 副島 広巳

東区歴史ガイドボランティア連絡会（愛称・さんぽ会）は、多くの歴史的資源に恵まれた東区で、市民の皆さんが東区の歴史にふれ、地域に愛着を持つてもらえるようにと平成21年4月に発足し、東区の魅力発信に大いに寄与していただいています。

平成21年5月から市政だより東区版に連載している「歴史さんぽ・ボランティアのすすめスポット」は、同会から原稿や写真をご提供いただいています。

平成23年3月には、その連載を取りまとめた初刊「東区歴史街道を往く」を作成しましたが、今回その後の2年分をまとめた「東区歴史街道を往くVol.2」を作成いたしました。地域の歴史や文化に関する情報ガイドブックとして、活用いただければ幸いです。

最後に、本書の発刊にあたり、ご尽力いただきましたさんぽ会の古賀会長をはじめ、会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

「さんぽ会」会長 古賀 偉郎

「東区歴史街道を往くVol.2」が発刊の運びとなりましたことは、誠に喜びにたえません。

東区には、教科書にも紹介される国宝『金印』をはじめ志賀島・名島城址等の遺跡や香椎宮・筥崎宮等の重文級建造物があります。一方で急速な都市開発の波に吞まれ消え去る遺跡、幸いにも関係者や地域の人々に守られ、ひっそりと人知れず伝えられている遺跡もあります。このような時代、会員諸氏が足で集めた様々な歴史情報を発表させて頂ける場を提供下さったことに対し深甚なる謝意を申し上げます。

平成24年度から東区のテレビ広報番組「まると東区」の場をお借りし、その月の「市政だより」に掲載された記事を執筆者がご案内しております。映像での紹介で、より一層、郷土の歴史に関心を持って頂ければ幸いです。

最後に私ども「さんぽ会」に今後とも力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今も美和台に残る殿様道（和自）

徳川将軍が代々世襲を行うと、朝鮮半島から総勢約5000人の一行が、10数隻の船団を組んで「朝鮮通信使」として祝賀のために来日しました。吉岐から江戸まで通過地の各藩が往復の警備・接待を引き受けましたが、その莫大な費用・労力は大きな負担になっていたそうです。

福岡藩は、一行を新宮沖の相ノ島で接待するため、物資・人員を陸路で現福津市の津屋崎に集め、船で同島に運びました。次の小倉藩に引き継ぐまで、台風などが来れば大変な苦労があったと記録に残されています。

1643年第5回来訪の際、黒田藩主の黒田忠之は、同島に渡るための近くて便利な新ルートを作りました。この道は「殿様道」と呼ばれ、その一部が今でも和自丘三丁目（写真）に残っています。殿様道のルートは、唐津街道の



今も残る殿様道（和自丘三丁目）

新宮町 原上付近から左折↓高美台の大神神社↓中和白から唐の尾（和白病院付近）に築いた堤防道路↓美和台（和白丘三丁目）の東の下側↓新宮町の人丸神社↓湊川河口↓同島です。

【案内人】 吉川 清弘



【所在地】 新宮町原上付近～湊川河口

海人の浦「弘と天神社」(志賀島)

志賀島の西方の「弘^{ひろ}」地区について、江戸時代の学者貝原益軒の著書『筑前国続風土記』には、女性がみんな海に潜って海産物を捕



ひっそりとたたずむ弘天神の鳥居

るため海人の浦ともいう、と紹介されています。さらに、筑前の海人の居所として、鐘崎、大島、波津浦、弘浦なりと記され、海人が捕ったアワビで熨斗鮑^{のしあわび}を作り、それを毎年7月に徳川將軍家に献上していたと記録されています。

この弘にある「天神社」の主祭神は、天神様とはいっても菅原道真公ではなく、天の神様たちの命を受けて国づくりに取り掛かった伊邪那岐神・伊邪那美神です。この天神社は、金印が出土した東隣の地から370〜380年前に今の地に移され、海の精霊

「綿津見」を祭る志賀海神社としても縁の深い神社です。

【案内人】 加藤 徳生



【所在地】 弘 (志賀島)

お綱さん物語（馬出）

「黒田騒動」に巻き込まれ、心ならずも幼い我が子を手に掛けた悲劇の主人公「お綱さん」の墓が東区馬出の路地の奥にあります。

福岡藩主2代目黒田忠之から愛妾の采女^{うねめ}を押しつけられた浅野



馬出バス停近くの路地奥にある墓

四郎左衛門は、采女を受け入れるため妻お綱に「月2、3回は子どもに面会する」と約束し離別しましたが、次第に足が遠のき、ついにはお綱を離縁しました。

お綱は、幼い2人の子どもの前途を悲観して殺害。浅野と采女への復讐の一念で鉢巻きに長刀という姿で、福岡城下へと駆け込みましたが、浅野家の居候明石彦五郎に切られ恨みを残して亡くなり、馬出に葬られました。その後、浅野と采女は、お綱の亡霊に悩まされ死亡しました。

お綱の霊を慰めるため、浅野宅

跡地の長宮院に「お綱堂」が建立されましたが、福岡大空襲で焼失。現在は糸島市二丈福井にある眞光院に祭られ、悪縁をはらい、良縁を結び、家庭円満の利益があるとされています。

お綱さんの物語は諸説ありますが、その一つをご紹介します。

【案内人】 橋本 幸雄



【所在地】 馬出二丁目

香椎高校の黒門（香椎）

平成23年に創立90周年の県立香椎高等学校正門横の「黒門」は、平成8年の創立75周年に復元され、同校のシンボルになっています。

香椎高校の前身である旧制私立香椎中学校は、博多の実業家・四代目 太田清蔵氏おあたせいぞうにより昭和16年



香椎高校の「黒門」

に現在の福岡女子大学の地に創立されました。

太田氏は東京下落合の旧相馬子爵邸（奥州中村藩相馬家）を買収し、その大名屋敷の珍しい長屋付きで袖（出番所）を抱えた黒門を「東に赤門の東京大学、西に黒門の香椎中学あり」という建学の意気込みから、長沼賢海けんかい初代校長の申し出により昭和18年に旧制私立香椎中学校へ移築しました。

旧制私立香椎中学校は太田清蔵翁亡き後、県立への移管問題が生じ、5代目清蔵氏に引き継がれ、昭和23年4月の学制改革で香椎高等学校に改称。同年7月香椎高等

女学校と合併して、県立香椎高等学校になりました。

前述の香椎高等女学校は、大正10年に糟屋郡立粕屋実業女学校として創立後、大正11年4月に県立粕屋高等女学校、同年7月に県立香椎高等女学校に改称されています。

【案内人】

瀬尾 六雄
橋口 千鶴子



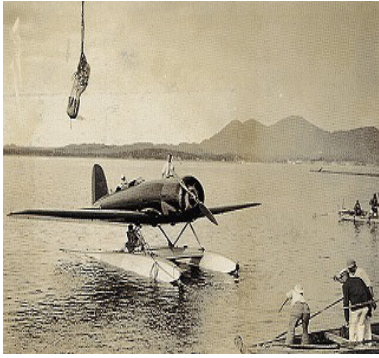
【所在地】 香椎二丁目

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

空の英雄が飛来 名島水上飛行場（名島）

国道3号線を香椎方面に向かつて名島橋を渡り、最初の信号を左折して福岡城浜郵便局手前の三差路までを「飛行場みち」といいます。郵便局を過ぎて左折した道路添いに「名島水上飛行場跡」の記



リンドバーグが飛来した
名島水上飛行場

福岡市 鷺巣 盤子さん所蔵

念碑、側碑には「昭和5年開場し大阪と中国の上海へ水上機による定期空路が開かれ9年に閉鎖、6年にはリンドバーグが飛来した」と刻まれています。

昭和2年5月にニューヨークから大西洋を横断、パリまで33時間30分の単独無着陸飛行に成功し「翼よ、あれがパリの灯だ」で有名な空の英雄リンドバーグが夫人を伴って昭和6年9月17日に北太平洋航路調査のため、名島水上飛行場へ寄航。開場して2年目に初めて外国機を迎えたのでした。

当時、西日本新聞は「立花山の

上空にポツンと見えた機影は、ぐんぐん姿を現し赤い翼を翻して博多湾を一周すると名島水上飛行場に着水した」と記しています。日本で寄港したのは根室、霞ヶ浦、大阪と福岡の4カ所です。

平成23年に満80年を迎え、地元（名島校区自治協議会）では、80周年記念事業が行われました。

【案内人】

安部

光征 みつゆき



【所在地】 名島一丁目

亀山上皇と敵国降伏の勅額（箱崎）

県庁近くの東公園に立つ亀山上皇の銅像は、17年の歳月を費やして明治37年に完成しました。

銅像の原型となる木型像は、博多出身の彫刻家・山崎朝雲によって制作され、高さ6.25メートルで銅像とほぼ同じ大きさです。



亀山上皇の木型像

上皇は、文永11年（1274年）

10月の元寇げんこうの際に、我が身をもって国難に代えるよう伊勢神宮に祈願されました。このことから、上皇の木型像は、元寇と関わりが深い箱崎宮に平成20年に寄贈され、平成23年10月20日から同宮の奉安殿で一般公開されています。

箱崎宮楼門の「敵国降伏」の勅額は、元寇で炎上した社殿の再興に当たり上皇が納められたご親筆を桃山時代に模写拡大したもので、箱崎宮の象徴です。

「敵国降伏」の4文字は、太平洋戦争中は、敵国を撃破し降伏させる意味に解釈され、戦意高揚に

用いられましたが、前箱崎宮宮司の田村克喜さんは「幕末の儒学者・頼山陽らいざんやうや福岡の言論家・福本にちなん日南なども述べていますが、『敵国降伏』は、武力で攻め滅ぼす霸道でなく、徳によりおのずからなびかせる王道を示すもので、これが的確な解釈なのです」といわれています。

【案内人】 橋本 幸雄



【所在地】 箱崎一丁目

奈多の「志式座」(奈多)

玄界灘の荒波と黒松の林をわたる海風の浜に奈多漁港があり、白砂青松の海岸を背景に、奈多の氏神様で由緒ある「志式神社」があります。

その境内には明治28年



奈多祇園祭の奉納踊り

(1895年)に久山町の猪野神社境内から移築された市指定有形民俗文化財である常設の野舞台「志式座」(芝居小屋)があり、毎年4月1日の初老賀祭(厄落とし)と7月19日・20日の奈多祇園祭で使われています。

奈多祇園祭は天明4年(1784年)に疫病と飢饉退散のお礼に「おどり(芝居)」が奉納され、以後毎年「万年願」と称して奉納踊りと奉納芝居が、この常設舞台が移築される前から一度も欠くことなく続けられています。観客は、しばいを・しばの張ら

れた席で見物します。これがいわゆる「芝居」です。

この他にも、志式神社には秋の大祭に奉納される鯛を料理する早さを競う福岡県指定無形民俗文化財の早魚行事があります。

奈多には昔から伝承されている独特の文化があります。

【案内人】 吉村 嘉代子



【所在地】 大字奈多

歴史

歩・歩・歩
さんぼ

勝馬の享保の大飢饉犠牲者供養塔（志賀島）

志賀島の北西、勝馬地区集落の中央高台に天和3年（1683年）に開山された長寿山西福寺があり、境内には享保の大飢饉による犠牲者の供養塔があります。

享保17年（1732年）の未曾有の長雨と洪水は、米の収穫に大



お地蔵さんが刻まれた犠牲者供養塔

きな影響を与え、筑前黒田藩の人口26万人の3分の1以上の人が餓死しました。当時藩が幕府に届け出た石高47万3千石に対し、その年の収穫高は4万2千石と記録されています。藩内773カ村のうち、年貢が納められたのは26カ村に過ぎませんでした。人々は食べ物を求め、博多の町や福岡城下では、物乞いであふれる有様だったようです。

博多の商人有志が西町浜（現：対馬小路付近）に設けた粥場には柄杓一杯の粥を、藩が荒津の浜に設けたお救い小屋には1人1日一杯のおわんの粥を求めて人々は

列をなし、そこに行きつくことなく倒れ命を落としていく人も多くありました。

静かな農村、勝馬も例外ではありませんでした。今から280年前にそのような史実があったことを知る人は少なく、「災害は忘れた頃にやってくる」と供養塔のお地蔵さんは、何か語りかけているように感じました。

【案内人】 横田 國廣



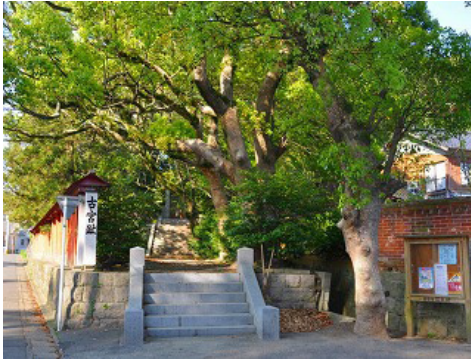
【所在地】 勝馬（志賀島）

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

香椎宮・古宮跡（香椎）

香椎宮本殿の北東に香椎宮・古宮跡があります。この地は、14代仲哀天皇が熊襲を平定する際の大本営があった場所で、天皇の妻である神功皇后のご神託の舞台でもありました。



香椎宮・古宮跡

古事記には次のように書かれています。

「仲哀天皇が、ご神託を受ける神功皇后のために琴を弾いているとき、大臣の武内宿禰が神意を問いました。すると、神功皇后の口から『空しの国熊襲でなく、宝の国新羅を攻めよ』というご神託がありました。仲哀天皇はこれを無視し熊襲と戦いました。数カ月後、再び神功皇后の口から『およその国は汝の治める国ではない。汝は一道に向かえ（あの世へ行け）』というご神託がかけられました。その時、突然灯りが消え、琴の音が聞こえなくなり、武

内大臣が火を灯すと神の怒りに触れたのか仲哀天皇は急逝していました。」

神功皇后がこの大本営跡地に仲哀天皇の神霊を祭られたのが香椎宮の起源とされています。なお、香椎の名は、古宮跡の敷地内に今もある「棺懸の椎」に、仲哀天皇のお棺を立て掛けたところ四方に香ばしい香りがしたことに由来するといわれています。

【案内人】 森本 啓三



【所在地】 香椎三丁目

名島橋と渡し船（名島）

東区が多々良川に架かる名島橋は、三代目の橋です。初代は、文

禄元年（1592年）小早川隆景により架けられました。文政11年（1828年）の洪水で流されました。その後は、渡し船が通い、渡し場の石積跡が名島のJRと



多々良川に架かる名島橋（三代目）

西鉄電車の鉄橋間の名島側の川ぶちに今でも残っています。

二代目は、総ヒノキ造りの立派な橋でした。地元有志の出資などで明治43年（1910年）に完成しましたが、補修維持の負担が大ききく、昭和8年の現名島橋の開通により撤去されました。

現在の名島橋は、昭和5年（1930年）に着工、昭和8年（1933年）に竣工しました。全長204.1m、全幅24mで鉄筋コンクリートアーチ橋、7連の白く輝く御影石で覆われた優美な姿は周囲とよく調和して、区のシンボルとして市民に愛されています。

す。

橋の設計者後藤龍雄氏は、当時としては珍しい鉄筋コンクリートアーチ橋をなぜ採用したのでしょうか。その理由は九州が「石橋の国」であったことと、名島橋着工の前年に建設された新湊の万代橋ばんだいばしの影響といわれています。

万代橋のスケールと美観に負けない地域の象徴となる橋を造りたい、後藤氏の未来を見据えた壮大なビジョンに感動さえ覚えます。

【案内人】 平山 勲



【所在地】 多々良川河口

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

石炭の街「西戸崎」(西戸崎)

志賀島に通じる陸路の松林と砂地であった西戸崎は、明治8年にはわずか14戸の寒村でしたが、明治38年の宇美〜西戸崎間の鉄道開



当時の西戸崎炭鉱の様子



炭鉱抗口跡の碑

通により粕屋炭田炭の積出港として、さらには明治42年の製油所稼働開始などにより、昭和7年には675戸、3768人を数えるまでに至りました(平成24年3月現在2680世帯、6044人)。昭和12年大岳地区に西戸崎炭鉱が創立され、朝鮮動乱を契機に昭和25年から30年に最活況期を迎え、年間出炭量11万ト、従業員千人を擁するほどでしたが、昭和30



【所在地】 大字西戸崎

年代以降海外炭の輸入とエネルギーの石油転換が進行したため昭和39年に閉山されました。現在、ゴルフ場の入口にひっそりとこの炭鉱抗口跡の碑が建っています。

【案内人】 加藤 徳生

和白高美台の大神神社（和白）

神功皇后が神のお告げに従って新羅を攻める時、兵を集めようとしたがなかなか集まらず、大和の国（現在の奈良県）から兵を



高美台の大神神社

集めました。高美台の大神神社は、その時駐屯する兵のため、大和の国の大神神社のご祭神をお迎えし祭ったといわれています。

大和の国の大神神社は、本殿を設けず三ツ鳥居を通してきれいな円錐形の三輪山を拝み、わが国最古の神社といわれています。祭神は大国主命・大黒様として親しまれている大物主大神です。

高美台団地造成前にあった高見山が三輪山の姿に似ていたので、ここに鎮座したといわれています。

代々の立花城主はこの神社を崇敬し守護神としていました。永禄10年（1567年）の立花軍と宗

像軍の和白の戦いではこのあたりが戦場となりました。

境内には6世紀末頃の横穴式古墳があり、武人の馬具や直刀、黒曜石の矢尻等が出土しています。

【案内人】 酒井 孝司



【所在地】 高美台二丁目

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

宮崎宮・夕陽の素晴らしい眺め（箱崎）

宮崎宮の拝殿から参道・浜の方向を眺めると、一の鳥居から浜の大鳥居まできれいに並んでいます。国の重要文化財であります。一の鳥居は、笠木と島木は一つの石材で作られ、貫と島木は一つ



宮崎宮の拝殿から浜の方を望む

さが同じで笠木の先端が反り上がり、明神鳥居の種の「宮崎鳥居」といわれています。太い柱は三段に切れて下太りとなっています。筑前国初代藩主黒田長政公の慶長14年（1609年）の寄進です。二の鳥居は大正6年に黒田勘

七が寄進、三の鳥居は貞享元年（1684年）3代藩主黒田光之公の寄進ですが今は倒壊しています。国道そばの大鳥居は、昭和5年当時の福岡県会議長林田春次郎氏の寄進です。

箱崎の夕日は 鳥居の中に入り

笑月

という川柳があります。夏至の頃、夕陽は志賀島や能古島を真紅に染

め、四つの鳥居を通して宮崎宮の御神殿の御神鏡に映る様子は壮観で、神秘さに満ちた光景だったということです。

【案内人】 橋本 幸雄



【所在地】 箱崎一丁目

御島神社 (香椎)

香椎潟に浮かぶ小さな島「御島」は、香椎古宮と並んで神功皇后の神託の場といわれ、そこにある祠を御島神社といっています。



香椎潟に浮かぶ御島神社

かつては背の高い岩島でしたが、今は崩れて岩が取り払われ、満潮時には鳥居と祠の一部が頭をのぞかせるだけとなっています。古事記には次のように書かれています。

「14代仲哀天皇の崩御後、神功皇后は仲哀天皇の身代わりとして御島に渡り、神託を問いました。頭髮を海流につけ、『一つにまともれば熊襲を、二つに分かれたら新羅を攻めに、もし神の徴あれば髪分かれて二つとなるべし』という儀式を行いました。すると髪は二筋に分かれたので、その髪を男性の髪型である美豆良結いにしました。軍勢を整え、船を並べて海

を渡ると、順風が吹いて新羅の国に押し上がり、見事外征を成し遂げました。」

香椎には今も、男装した神功皇后にちなんだといわれる片男佐、浜男という地名が残っています。

【案内人】 森本 啓三



【所在地】 片男佐海岸 (香椎)

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

陣の越(松崎)



陣の越付近の散策路

陣じんのこしの越は、松崎一丁目にある高い丘の上にあります。ここは、建武3年（1336年）の多々良浜の合戦で、足利尊氏が本陣を置

いた所といわれています。

足利尊氏は後醍醐天皇に反旗を翻し、建武3年2月、九州の筑前に落ち延びてきます。尊氏を迎え撃つのは、天皇方である肥後の菊池武敏。同年3月2日、両軍は多々良川南岸に広がる干潟・多々良浜で激突します。尊氏は、陣の越から敵の大軍を見下ろして、敗北を覚悟していたそうです。しかし、北風が砂を巻き上げ敵の目つぶしとなったことや敵の中から寝返る者が出たため、足利軍は勝利することができました。

その後、九州を平定した尊氏は再び京都に攻めのぼり、室町幕府を開きました。つまり、彼にとつ

て九州は捲土重来の地だったのです。現在、陣の越は緑地公園になり、木々の間から多々良川の流れを垣間見ることが出来ます。多々良浜には福岡流通センターが建ち、かつて尊氏が眺めたであろう景色とは、だいぶ様変わりしています。

【案内人】 池間 夏子



【所在地】 松崎一丁目

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

東洋一の規模・雁ノ巣飛行場（雁ノ巣）

昭和11年、雁の巣に東洋一の国際空港・福岡第一飛行場が竣工し、国内はもとより、中国大陸や朝鮮半島、台湾、東南アジア方面へと銀翼が飛び立ち、空の時代の幕開けとなりました。

昭和8年、自ら福岡を訪れた通



東洋一の規模をを誇った雁ノ巣飛行場

信省航空局長と県土木部長が国際空港建設予定地を協議し、雑餉隈東方の水田地帯と雁の巣を比較し、用地の取得が容易な雁の巣に決定しました。昭和10年に国・県・市の建設総予算60万円で、23万坪の用地に建設が始まりました。なお、当時の大卒初任給の月給は、40円から50円だったそうです。工事は、人手に頼る作業で日給90銭、天気の良い日は割増が出ていたそうです。

開港3年後の昭和14年、狭くなったことから拡張工事が行われ、幅80m、長さ800mの2本の滑走路が交差した空港となりました。ますます活況を呈しました。

戦後は米軍に接収され「キャンプ・ブレディ」と呼ばれていました。現在は、雁の巣レクリエーションセンターとして多くの市民のスポーツを楽しむ姿が見られます。

【案内人】 横田 國廣



【所在地】 大字奈多

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

綿津見神社 (三苦)

三苦六丁目の海岸近くに綿津見神社があります。綿津見とは海の神様のことをいい、御祭神は志賀



綿津見神社

三神と豊玉姫です。

境内にある由緒書きには次のように記されています。「神功皇后が御西征のとき、対馬沖で暴風雨に遭いました。そのとき、船の雨露をしのぐ苦を3枚海に流して、その苦が流れついた場所に社を建てて祭ることを誓い祈ったところ、嵐が収まりました。凱旋後、苦が漂着した地にこの神社を建て、苦が3枚流れ着いたことから、その地は三苦と名付けられました」

同神社は当初、八大竜王社と称しており、現在も境内にある石の額と石灯籠に面影を残しています



【所在地】 三苦六丁目

す。明治初年の神仏分離の際に綿津見神社と改められ、航海安全や漁業、農業の神様として信仰されています。

同神社には、延暦24年（805年）伝教大師・最澄の作といわれる虚空蔵菩薩木像など5体が安置されています。廃仏毀釈の破壊を免れて残ったこの仏像群は、市指定有形文化財として保存される貴重なものです。

【案内人】 柳瀬 英昭

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

箱崎・恵光院 (箱崎)

宮崎宮参道脇にある恵光院は、筑前国第2代藩主黒田忠之公を開基とし、宮崎宮社坊の座主坊五智



恵光院境内の灯籠堂

輪院正範大和上により寛永年間（1624〜1644年）に開山された真言宗のお寺です。ご本尊は、薬師瑠璃光如来です。

明治維新の折、激しく吹き荒れた神仏分離による「廃仏毀釈」の嵐により宮崎宮や周辺の社坊にあつた数多くの仏像・仏画も破却されようとなりましたが、当時の住職や関係者等の尽力により恵光院へと移され、守られ、今に伝えられています。これらの仏像・仏画は、神仏習合の時代の宮崎宮社坊の歴史を知る上で、貴重な物とされています。

また、豊臣秀吉が天正15年

（1587年）6月に宮崎宮に宿陣し、博多復興の町割りを命じた時に千利休や博多商人の島井宗室、神屋宗湛等と茶会を行った燈籠堂が境内にあります。毎年6月には、燈籠堂前の菩提樹の花がすがすがしい香りを漂わせて咲き、お祭りが行われています。 ※社坊とは、神社に付属する寺のこと。

【案内人】 吉村 一紘



【所在地】 馬出五丁目

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

勅使道・香椎宮参道（香椎）

香椎宮（旧官幣大社）は皇室ゆかりの社で、国の大事にあたってその都度勅使が派遣されてきました。その記録は續日本紀に「天平



【所在地】 勅使道（香椎宮）

9年（737年）新羅の無礼の状を告げしむ」とあるのが最初で、今日まで百回を超えています。現在は10年に一度の派遣で、次は平成27年に予定されています。

大正11年（1922年）貞明皇后（大正天皇妃）が皇太子（裕仁・昭和天皇）の欧州歴訪無事帰国のお礼に自ら参拝されました。これを記念して参道の整備が盛大に行われ「勅使道」と名付けられ、大正15年に165本のクスノキが植えられました。今、クスノキは見事に育ち、神話と伝承に包まれるこの地域に緑豊かな景観をつくり、神秘的雰囲気醸し出してい

ます。ウォーキングと歴史の謎解きに出かけませんか。

◇周辺のスポット

- ・香椎宮本殿（香椎造り）
- ・綾杉
- ・古宮
- ・仲哀天皇大本営跡・不老水
- ・報恩寺（日本最初の菩提樹）
- ・頓宮
- ・万葉歌碑

【案内人】 大和 右二



【所在地】 香椎宮勅使道

歴史

歩・歩・歩
さんぽ

松崎の一里塚（松崎）

寛永12年（1635年）『武家諸法度改定』で参勤交代制が定められました。福岡藩主の参勤路は、



【所在地】 松崎中前・一里塚付近

初期には博多から海路をとり瀬戸内海経由で大阪に上陸していましたが、後には唐津街道を使用しました。

国道3号博多バイパスの松崎に「火の見下」の信号とバス停があります。ここはバイパスと旧唐津街道が交わる所で、かつては蓮華坂と呼ばれた坂の上り口に当たり、街道の東側に一里塚の榎の大木がそびえていました。このため、昭和初期までこの付近を一里塚と呼ぶ人もいましたが、今は大榎も見られなくなりました。

一里塚に榎が植えられたのは、慶長9年（1604年）に徳川幕府が江戸日本橋を起点として全国の主街道の左右に木を植え一里塚

を築くように命じた際に、周囲の木と違う木が旅人の目に付いて良いと考えた将軍命令によるものです。

福岡藩では枳形門前の西中島橋を起点として宮崎宮西側に一里塚が設置されました。次が松崎の「火の見下」付近に、その次は「下原」に一里塚が設置されていました。

【案内人】 鎮守 宏行



【所在地】 松崎・火の見下



ガイド風景（名島・お観音さま広場）

東区歴史街道を往く Vol.2

- 発行 福岡市東区役所 平成 25 年 3 月
- 編集 東区歴史ガイドボランティア連絡会

『歩・歩・歩（さんぽ）会』の愛称について

「新しい人たちと歩み、地域の人たちと共に歩み、ボランティアとしてのヨチヨチ歩きを始める私たち、この三つの歩みを積み重ねていきたい」との思いから、また、地域の歴史を楽しく散歩する意味から、三歩と散歩で「さんぽ会」としたものです。

『さんぽ会』のホームページを公開しています。

URL: <http://www.e-sanpokai.tank.jp/>